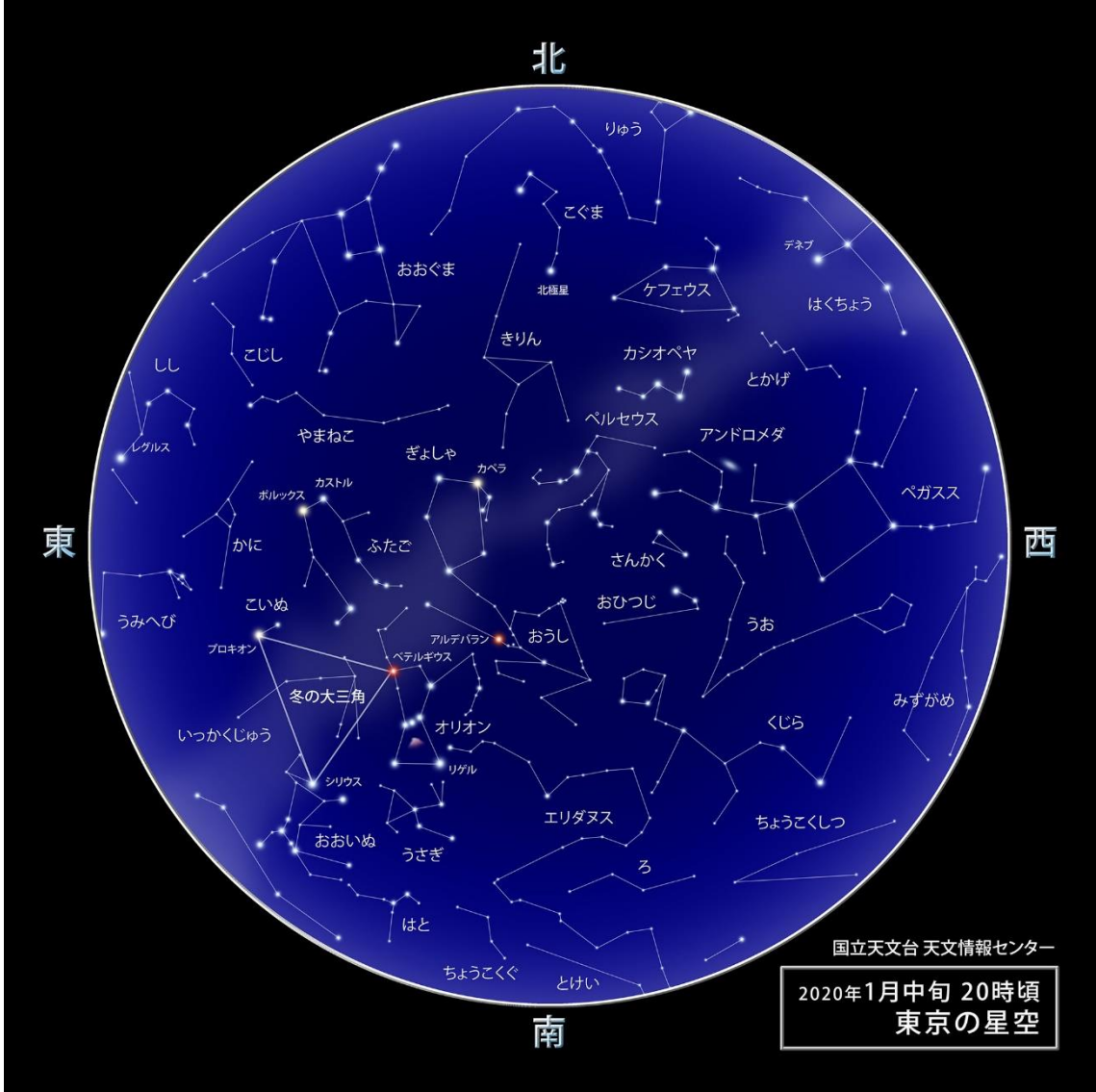


1月の星空案内



冬は一年間でもっとも寒い季節ですが、もっとも綺麗な星空が楽しめる季節でもあります。明るい一等星がたくさん見つかる冬の星空、まずは「冬の三大角」を探してみましょう。

惑星では、夕方方の西の空には金星が明るく輝いています。明け方の東の空には、まだ目を引く明るさではありませんが、火星が見えてきています。火星は10月6日の地球最接近に向けて徐々に明るくなっていきます。

★1月の星空ガイド★

1日(水)	元旦
4日(土)	しぶんぎ座流星群が極大(見頃は5日未明。1時間に20個程度)
6日(月)	小寒(しょうかん)
11日(土)	○満月/半影月食
20日(月)	大寒(だいかん)
25日(土)	●新月

半影月食とは??

月食とは、太陽に照らされた地球の影が満月にかかり、月が欠けて見える現象です。地球の影が部分的にかかると「部分月食」、月をすっぽり覆い隠すと「皆既月食」となります。2020年はいずれも見られませんが、その代わりに「半影月食」が4回(日本では3回)起こります。

月食の時、地球の影の濃い「本影」の周りに薄い「半影」が取り巻いています。その半影が月にかかった部分が、うっすらとくすんで明るさが若干落ちて見えるのが「半影月食」です。

半影月食は、1月11日、6月6日、11月30日に起こります。